東中

課題の解決に向けて主体的に取り組む生徒の育成

～「自発的行動力」の向上を促す指導を通して～

（２年計画の２年次）

校長　　千　葉　　誠

１　研究主題について

本校では、昨年度「課題の解決に向けて主体的に取り組む生徒の育成～『自発的行動力』の向上を促す指導を通して～」の研究主題のもと、課題解決に向けた取組として授業づくりや、９ＢＬＯＣＫＳを取り入れることで、生徒の課題解決に向かう態度の育成に取り組んできた。その結果、自ら課題を設定し、その達成に向けて取り組もうとする意識は高まったと考えられる。しかし、課題の解決に向けて「自らの力でやり遂げるために主体的に取り組み、あきらめずに最後までやり遂げようとする姿勢」を充分に育成することができなかったという課題が残った。昨年度の取組から、学習や諸行事において９ＢＬＯＣＫＳは課題解決に向けた意識づけに有効であると捉えている。今年度は、「課題解決を目指し、自発的に、根気強く行動する力」を育てるために、各教科における授業づくりの工夫を引き続き行うとともに、９ＢＬＯＣＫＳとＰＤＣＡサイクルを融合させることで、自発的行動力の向上と根気強く取り組むことのできる生徒の育成を目指し、本研究主題を設定した。

２　研究のねらい

自発的行動力を身に付けることが主体的に取り組んでいく態度に繋がり、「主体的・対話的で深い学び」を実践するための根幹となるスキルであると捉えている。

主体的な行動力を育成するために重要なことは、課題意識をもって行動することで、生徒自身が課題を設定することが特に重要であると考える。その前提となるのは、生徒自身による自己理解である。昨年度の９ＢＬＯＣＫＳへの取組は、振り返りの時間を十分に確保できなかったため現状を的確に判断することができず、先を見据えて目標を設定したり、継続して取り組んだりすることができなかったという反省点が挙がっている。

その反省を生かして、今年度はＰＤＣＡサイクルの実践と評価を確実に行い、自己理解を深めることで、自発的行動力の向上を促すことができるということを検証したい。

なお、各教科においては課題設定までの教師のはたらきかけについて研究するとともに、振り返りの場面ではコーチングの手法を用いて内的な欲求を高めていくことも昨年度と同様に実践していくこととする。

３　研究仮設

ＰＤＣＡサイクルを実践して自己の現状を理解することで、課題解決に向かう自発的行動力を高めることができるものと考える。

４　研究内容

(1)　９ＢＬＯＣＫＳとＰＤＣＡサイクルの活用
(2)　特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり
(3)　各教科、領域における教師のはたらきかけの工夫
(4)　一人１台端末の効果的な活用とＩＣＴ機器を効果的に活用した授業づくり

５　研究の経過

(1) 研究仮設に基づく授業研究

月	日	内容・授業の概要等
５	２５	小・中学校ジョイントスクール推進授業における公開授業（全教科・全学年）

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
５	１８	東中視聴覚部会による「一人１台端末の効果的な活用」についての研修（授業で使えるグーグルスライドの研修、授業や行事が充実するＭｅｅｔ講座）
６	２７	授業の導入から課題設定おける教師のはたらきかけの工夫
８	１８	「特別な配慮を必要とする生徒の学びを支える授業づくり」 講師　八戸市教育委員会こども支援センター　主任指導主事　横沢　吉則
９	２４	９ＢＬＯＣＫＳとＰＤＣＡサイクルの活用（各学年の取組について）
１１	１５	コーチングの手法について
１１	１６	東中学区の小学校教員との学習習慣定着に向けての共通理解
１	１８	今年度のまとめ（成果と課題）

６　研究の成果

(1) 自発的行動力については、９ＢＬＯＣＫＳを継続して活用するとともに振り返りの時間を設定したことで課題が明確になり、主体的に行動しようとする態度の育成につながった。教師側も９ＢＬＯＣＫＳの活用に意識的に取り組むことで、効果高めるための工夫について考えを深めることができた。

(2) 「一人１台端末の効果的な活用」を行ったことにより、授業や行事においてＩＣＴ機器を活用する機会が広がった。また、特別支援学級における授業づくりについての研修を行ったことで、生徒への支援のあり方について各教員が考える機会となった。

７　研究の課題

(1) ９ＢＬＯＣＫＳの活用は、定期考査や諸行事において有効であったが、日常の授業や家庭学習への主体的な取組を促すことに結び付けるところには至らなかった。

(2) 課題設定までの教師のはたらきかけについての研究は教科ごとの取組となったが、授業における「課題解決を目指し、自発的に行動する力」に大きくかかわるため、全職員が共通理解を図り、研修する場を確保する必要があった。

（記入者　佐々木　由子）